

# 米子がいな創生総合戦略《素案》の概要

～米子市人口ビジョン及び米子市まち・ひと・しごと創生総合戦略～

## 第1章 人口ビジョン

地方創生に取り組むことによる政策効果を反映した将来の目標人口

- 2040年 目標人口 ⇒ 13万8千人以上を維持
- 2060年 目標人口 ⇒ 12万8千人以上を維持

《人口の現状分析から見た人口減少を抑制するためのポイント》

- ①「出生数の増加」(若年女性の人口減少抑制・出生率向上)
- ②「山陰両県以外からの移住者の増加」

### 合計特殊出生率の目標

◇現状値：1.78（2013年）

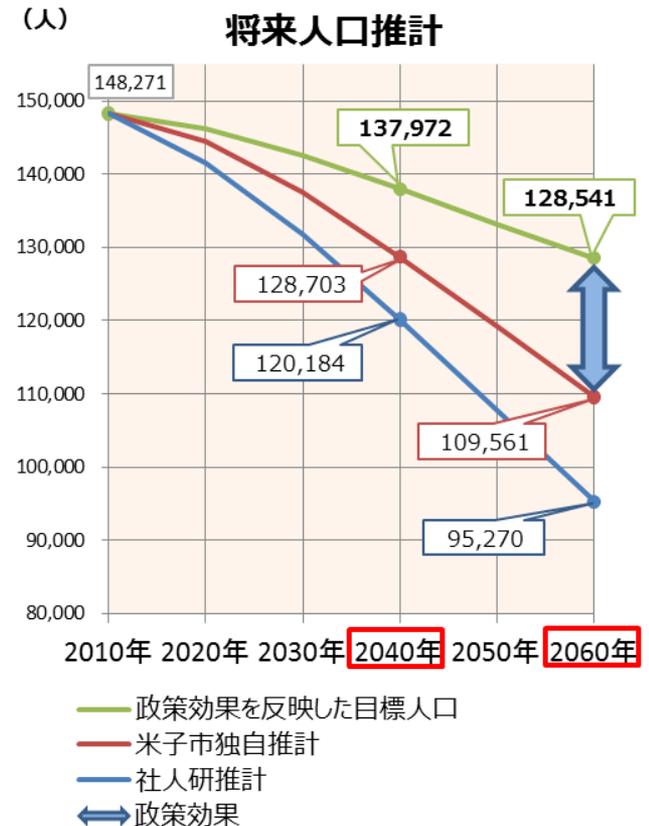
- ◆2020年：1.8程度
- ◆2030年～：2.07(人口置換水準)
- ※国目標の10年前倒し

### 社会移動の目標

本市の独自推計から若い世代（10代～20代）の純移動率を一律2%ポイント上昇

- ◆5年間で400人程度の社会増

◎目標人口の達成 ⇒ 高齢化率のピークを早く迎え、かつ高齢化率を低く抑えられる。年少人口と若年人口が補われることで、安定した年齢構造に！



## 第2章 地方創生への取組に当たって認識すべき地域的な実情

人口動向への関係性が深く、取組の視点として認識しておくべき地域的な実情の整理

◎経済・雇用情勢や若い世代の希望を踏まえ、本市の強み・特性を活かした地方創生の取組に向けて！

### 1 少子高齢化の進展の中での経済・雇用等の現状

#### 経済情勢

- ◆高齢化進展による地域全体の消費活動の減退が懸念。
- ◆医療・福祉関係の就業者が多く、年齢は全国平均以下。
- ◆農業・林業は就業者が少なく、高齢化が全国平均以上に進行。

#### 雇用情勢

- ◆雇用情勢は改善傾向にあるも、充足率は著しく減少し、人手不足が拡大。

⇒ 生産年齢人口の減少による人手不足の深刻化が懸念

#### 市の財政

- ◆少子高齢化と人口減少の進展による老人福祉費（歳出）の増大と市民税（歳入）減少が懸念。

### 2 若い世代の就労・結婚・出産・子育ての現状

#### 就労の現状と課題

- ◆就職希望の新規高等学校卒業予定者の約8割は、県内就職を希望、就職内定率は非常に高い。
- ◆就職後3年以内の離職率は4割超、企業・地域経済への影響が懸念。

#### 結婚・出産・子育てに対する意識

- ◆希望する子どもの数は2人を超えるが、予定数は2人程度。  
⇒子育てや教育にかかる経済的負担と年齢上の問題が理由
- ◆子育て支援・児童福祉施策の市民ニーズは高い。  
⇒保育サービスの充実と子育てに伴う経済的支援への期待

### 3 地域資源等の強み・特性

#### 恵まれた自然環境

- ◆豊かな自然環境（大山・日本海・中海）
- ◆豊かな自然資源（皆生温泉、良質な地下水）
- ◆災害リスクの低さ

#### 交通の要衝（結節点）

- ◆米子駅を中心とする鉄道網（JR3路線）
- ◆高速道路網（米子道・山陰道）
- ◆米子鬼太郎空港（山陰唯一の国際航空路線）
- ◆境港からの定期貨客船（韓国・ロシア）

#### 充実した医療・介護環境

- ◆医療・介護施設の充実

#### コンパクトな市域に集積する都市機能

- ◆約132km<sup>2</sup>のコンパクトな市域
- ◆都市機能が集積する利便性の高さ

#### 全国第1位の暮らしやすさ（国の評価）

- ◆利便性を志向する条件で全国第1位

#### ふるさと納税の情報発信力

- ◆全国トップクラスの寄付実績と情報発信力

#### 秀峰大山の恵み米子の水

- ◆天の真名井・本宮の泉（湧水）など
- ◆よなごの水（水道水）

#### 白ねぎの里「弓浜」

- ◆白ねぎの有数の生産地
- ◆白砂青松100選に選ばれた景勝地
- ◆「ヨネギーズ」による情報発信

# 第3章 地方創生への取組により将来世代につなぐ米子のまちの姿

## ～2040年頃の米子のまちの展望～

### 1 山陰観光やビジネスの交通・宿泊拠点都市

- ◇交通の要衝、山陰の交通の結節点である本市は、JR米子駅、米子鬼太郎空港、高速道路（米子道・山陰道）が交差するインターチェンジなど、幾つもの玄関口を有する便利な交通アクセスと、本市及び周辺の観光地などへの2次交通の充実により、国内外から山陰への観光やビジネスの交通拠点のまちになっています。
- ◇JR米子駅及びその周辺は、駅の南側の玄関口となった駅南広場と駅南・駅北地区を連絡する自由通路により、両地区の連携や移動が円滑化され、歩行者の回遊性も高まり、駅の南側と北側を行き来する新しい人の流れが生まれ、駅を利用する観光客やビジネスマンの増加と相まって賑わいを見せています。
- ◇その賑わいの中には、山陰観光を楽しむ多くの外国人の姿もあり、皆生温泉でも多くの外国人宿泊客の姿があります。

### 2 山陰の経済・産業・雇用の中心都市

- ◇引き続き、交通の要衝などの強みを活かし、山陰の経済・産業・雇用の中心都市として発展し、人口のダム機能を維持しています。
- ◇企業誘致は、工業用地を逐次確保しつつ着実に進み、地元企業でも、工場等の新增設やこれに伴う新規雇用が増えています。
- ◇企業と高等教育機関との産学連携のほか、産学金官連携その他多様な連携により新事業や新産業も生まれています。
- ◇一方、中心市街地の商店街などでは、移住者を含む多くの若者などが、空き店舗などを利用し、子育て世代、まちなか居住の高齢者などの消費ニーズに合った地域ビジネスを展開し、賑わいを見せています。
- ◇地元事業者の事業承継も円滑に進み、若者や女性などによる新規創業も増え、子育てを終えた女性の再就労も促進されています。
- ◇このような中で、高校等の卒業後に地元で就職する若者、また、県外の大学等へ進学した若者も卒業後にはUターンして地元で就職する者が増え、若い世代の経済環境も改善し、未婚化・晩婚化、少子化といった課題の克服も近づいています。

### 3 充実した医療・介護環境による健康安心都市

- ◇鳥取大学医学部・同附属病院、山陰労災病院、国立医療センターなどの大規模な総合病院が所在するほか、人口規模当たりの全国平均を上回る数の医療施設や医療人材を有する本市は、引き続き、大規模な総合病院と地域の開業医が連携し、日々充実する質の高い医療サービスが提供されています。
- ◇充実した医療・介護環境の中で、子どもからお年寄りまで、市民がいきいきと健康で安心して生活するまちになっています。

### 4 「暮らしやすさ日本一」田舎での利便性志向生活最適都市

- ◇山陰という田舎の中にあっても、コンパクトな行政区域の中に、交通インフラ、商業施設、病院、学校、保育所、文化・体育施設その他の都市機能と豊かな自然環境が、まるでパノラマのようにバランス良く詰まっています。
- ◇田舎暮らしの中にも利便的な暮らしが共有できる良さがあり、また、都会と比較して生活コストも低く、さらに安定した雇用もあることから、国が作成する暮らしやすさランキング（地域の家計収支や地域の暮らしやすさの貨幣価値による順位）により、総合的な「暮らしやすさ日本一」として評価され、子育て世代を中心に移住先として全国から注目されるようになっていきます。

### 5 周辺市町村とともに発展する広域連携推進都市

- ◇山陰の経済・雇用を支える中心的な都市として、また、鳥取県西部圏域の中心都市として、そして、中海・宍道湖・大山圏域の中核都市として、周辺市町村とともに発展するまちになっています。
- ◇両圏域は、経済・雇用とも好調で飛躍的な発展を遂げ、圏域全体で、山陰の人口ダム機能を担っています。

# 第4章 地方創生総合戦略

“ヨナゴがい～な！” 「みんな」に選ばれる「まち」 みんなの米子のがいな創生を目指して

【計画期間】平成27年度（2015年度）～平成31年度（2019年度）の5年間

◆基本目標（4つの政策分野・数値目標）と基本的方向

## 政策分野Ⅰ

【基本目標】 しごとを守り生み出す元気なまち米子

～経済の活性化を図り、安定した雇用を創出します～

■雇用創出数《累計》

⇒5年後（平成31年度）までに、新たに3,000人以上

【基本的方向】

- ・若い世代を中心とした雇用対策
- ・高齢者等の活躍促進

## 政策分野Ⅱ

【基本目標】 ひとを呼ぶ魅力あるまち米子

～移住定住の促進・人口流出の抑制・魅力あるまちづくりの推進を図り、新しい人の流れをつくります～

■人口の社会増減《年間》（平成26年：マイナス149人）

⇒5年後（平成31年）において、プラス200人

■移住者数《累計》

⇒5年後（平成31年度）までに、新たに1,500人以上

■皆生温泉周辺の観光客入込み客数《年間》（平成26年：139.4万人）

⇒5年後（平成31年）において、178万人以上

■皆生温泉宿泊客数《年間》（平成26年：44万人）

⇒5年後（平成31年）において、47万5千人以上

■皆生温泉の外国人宿泊客数《年間》（平成26年：10,628人）

⇒5年後（平成31年）において、15,500人以上

【基本的方向】

- ・山陰両県以外からの移住定住の促進、若者の人口流出抑制とふるさと回帰促進
- ・観光客とコンベンションの誘致

## 政策分野Ⅲ

【基本目標】 ひとを愛し育む希望のまち米子

～少子化対策の推進を図り、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます～

■合計特殊出生率（平成25年：1.78）

⇒5年後（平成31年）において、1.80程度以上

■出生数《年間》（平成26年：1,330人）

⇒5年後（平成31年）において、1,500人程度

【基本的方向】

- ・少子化対策への総合的な取組

## 政策分野Ⅳ

【基本目標】 助け合いみんなで伸びるまち米子

～広域連携を推進し、圏域の一体的発展を図ります～

■中海・宍道湖・大山圏域人口（平成22年：662,035人）

⇒65万4千人以上（平成31年）※鳥取県西部圏域含む人口

【基本的方向】

- ・地方創生に向けた圏域の連携

【推進体制等】推進本部（庁内組織）と有識者会議（外部組織）による進行管理/議会、市民等の理解・協力/PDCAサイクルによる検証と必要に応じた見直し / 財政健全化への取組との調整 / 国・県・周辺市町村との連携・協力 / 産学金労等との連携・協力

# I しごとを守り生み出す元気なまち米子

～経済の活性化を図り、安定した雇用を創出します～

【数値目標】

■雇用創出数《累計》

⇒5年後（平成31年度）までに、新たに3,000人以上

## 1 企業誘致の推進と地元企業への支援

- ①企業誘致活動の推進
- ②誘致企業への支援（企業立地促進補助金の加算）
- ③新たな工業用地の確保に向けた取組
- ④地元企業の工場等の新增設・新規雇用への支援

## 2 「守ります！」中小企業等への支援

- ①中小企業の振興に資する制度融資の実施
- ②小規模事業者向け融資の利子補給制度の利用拡大
- ③中小企業等の小口資金を募るクラウドファンディング・サイト開設に向けた取組

## 3 「あなたも社長！」創業・事業承継への支援

- ①特定創業支援事業を修了し、雇用を伴う創業をした者への助成
- ②地元事業者の事業承継への支援に向けた取組

## 4 産学金官連携その他多様な連携による新事業・新産業の創出促進

- ①「先端医療創造都市よなご」の情報発信を契機とした産学金官連携の促進
- ②仕事の種（シーズ）づくりなど産学連携研究への支援
- ③新産業の開拓（新規事業参入・経営革新）のためプロフェッショナル人材を招聘・雇用する企業への支援
- ④「よなごエネルギー地産地消・資金循環モデル」の構築への取組
- ⑤農商工連携・6次産業化の推進
- ⑥地域おこし協力隊の活用による農産物加工品開発・販路開拓への支援

## 5 「大山山麓の恵み届けます！」ブランド化戦略の推進

- ①「大山ブランド」パワーブランド化戦略の推進
- ②淀江地域の農水産物特産品の情報発信と販路拡大

## 6 頑張る女性の再就労の支援

- ①女性の再就労につながる専門職資格の取得促進（人材確保策の観点含む）
- ②女性の再就労を支援する情報提供の強化

## 7 いつまでも若々しい高齢者等の活躍の促進

- ①いつまでも若々しく活躍する高齢者等の元気づくりの促進
- ②健康寿命の延伸に向けた事業展開
- ③買い物弱者への支援に向けた仕組みづくり
- ④米子市版CCRCの推進に向けた取組（本市在住者を含めたアクティブ・シニアの人材活用の推進とその移住定住施策との連携）

## 8 きらりと輝くNPO、市民団体等の活躍の促進

- ①まちづくり活動支援交付金の拡充（地方創生枠の創設）
- ②移住者支援を目的とする組織・団体の設立に向けた取組

## 9 次世代へつなぐ農業の多様な担い手づくり

- ①認定農業者・新規就農者・親元就農者など多様な担い手の育成・確保
- ②移住定住を伴う就農に対する総合的支援（情報発信、環境整備、就農条件整備等）
- ③おとし「農的生活」の支援（住居と農地の提供）
- ④小中学生などに対する農業体験機会の提供
- ⑤弓浜地域における農業基盤整備に向けた取組

## ≪主な重要業績評価指標KPI≫

■誘致企業数《累計》（平成元年度～平成26年度累計：29社）  
⇒5年後（平成31年度）までに、39社

■市内での新規創業件数《年間》（平成26年度：25件）  
⇒5年後（平成31年度）において、45件

■「先端医療創造都市よなご」の情報発信に係るシンポジウム参加人数  
⇒平成27年度において、300人

■女性の再就労のための専門職資格取得助成金交付人数《累計》  
⇒5年後（平成31年度）までに、120人

■農業の多様な担い手の数《累計》（平成5～26年度累計：129経営体）  
⇒5年後（平成31年度）までに、169経営体

# Ⅱ ひとを呼ぶ魅力あるまち米子

～移住定住の促進・人口流出の抑制・魅力あるまちづくりの推進を図り、新しい人の流れをつくります～

## 1 移住定住「ヨナゴYターンプロジェクト」の推進

- ①移住定住に係る情報発信の強化
- ②移住者からの相談窓口のワンストップ化ときめ細かな生活情報の提供
- ③移住希望者に対する住宅情報の提供（空き家情報バンクの整備）
- ④お試し住宅の利用促進
- ⑤県外からの移住者に対する住宅取得等経費の助成

## 2 「若い力募集中！」若者の人口流出抑制と学生等市外転出者のふるさと回帰促進

- ①新規卒卒者に対する就職活動支援（交通費助成）・移住就労支援（引越し費用助成）
- ②新規卒卒者に対する移住就労支援（奨学金利子助成）
- ③地元企業へのインターンシップ受入の促進
- ④本市職員採用における本市出身社会人Uターン枠の創設
- ⑤高校新卒者の就業・定着の促進
- ⑥ふるさと米子の先人に学ぶ郷土資料による郷土愛の醸成
- ⑦小中学生向け「米子で働く人から学ぶ」講座の開設
- ⑧都市圏等の高等教育機関との交流連携協定の締結によるインターンシップ受入などの交流の推進

## 3 中心市街地の魅力アップ

- ①-A 米子駅及び周辺の賑わい創出への取組（米子駅南北自由通路の整備、米子駅南広場の整備）
- ①-B 米子駅及び周辺の賑わい創出への取組（新駅ビル建設構想への対応）
- ②中心市街地商店街の魅力度を高める取組（ブラッシュアップ）の促進
- ③中心市街地空き店舗への出店の促進
- ④中心市街地における空き家を活用したコミュニティビジネスの創出・地域コミュニティの再生促進

## 4 「ヨナゴがい～な！」市の魅力の再発見と内外への情報発信

- ①地域おこし協力隊によるSNS等を活用した情報発信
- ②ふるさと納税寄付者に対する観光・イベントの情報発信
- ③子どもたちによる市の魅力の再発見（自ら市内巡りコースなどをプロデュースすることによる郷土愛の醸成）

## 5 「交流人口拡大中！」観光客・コンベンションの誘致の推進

- ①コアな米子の魅力の発掘・発信

## 【数値目標】

- 人口の社会増減《年間》（平成26年：マイナス149人）  
⇒5年後（平成31年）において、プラス200人
- 移住者数《累計》⇒5年後（平成31年度）までに、新たに1,500人以上
- 皆生温泉周辺の観光客入込み客数《年間》（平成26年：139.4万人）  
⇒5年後（平成31年）において、178万人以上
- 皆生温泉宿泊客数《年間》（平成26年：4.4万人）  
⇒5年後（平成31年）において、4.7万5千人以上
- 皆生温泉の外国人宿泊客数《年間》（平成26年：10,628人）  
⇒5年後（平成31年）において、15,500人以上

- ②ふるさと納税寄付者に対する観光誘客促進（宿泊優待券など特典の新設等）
- ③農と食・ポップカルチャー秋の大文化祭の開催
- ④メディア芸術の活用推進
- ⑤コンベンションの誘致の推進

## 6 「伝えよう！おもてなしの心」インバウンド(外国人観光客)対策の推進

- ①外国人観光客の誘致促進
- ②外国人を受け入れる地域国際化の推進
- ③国際交流員による「おもてなし中国語・韓国語講座」の開催

## 7 自転車の活用の推進を視点にしたまちづくり

- ①自転車の活用の推進に関する庁内研究会の設置

## 《主な重要業績評価指標KPI》

- 移住セミナー参加者数  
⇒平成27年度において、100人
- 移住希望者及び移住者からの相談件数《年間》（平成26年度：102件）  
⇒5年後（平成31年度）において、300件
- 合同就職ガイダンスへの本市出身者の参加数《年間》  
⇒5年後（平成31年度）において、150人
- 奨学金利子助成対象者数（移住就労者数）《累計》  
⇒5年後（平成31年度）までに、550人
- 米子駅南北自由通路・米子駅南広場整備の工事着手  
⇒平成30年度の工事着手を目指します。
- 本市の魅力や特色ある取組等のPR動画の作成件数《累計》  
⇒平成29年度までに、12件
- ふるさと納税寄付者に対する観光誘客促進に向けた観光関連団体等の協力件数《累計》  
⇒5年後（平成31年度）までに、20件

# Ⅲ ひとを愛し育む希望のまち米子

～少子化対策の推進を図り、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます～

## 【数値目標】

- 合計特殊出生率（平成25年：1.78）  
⇒5年後（平成31年）において、1.80程度以上
- 出生数《年間》（平成26年：1,330人）  
⇒5年後（平成31年）において、1,500人程度

## 1 「結婚から子育てまで！」総合的学習機会と結婚につながる出会いの場の提供

- ①結婚・妊娠・出産・子育てに係る総合的学習機会の提供（ウェブ版ヨネギーズ赤ちゃんファミリー応援大学）
- ②若年者に対する結婚への意識の醸成
- ③結婚を希望する若者への出会いの場の提供

## 2 子育て世帯への経済的支援

- ①第3子以降の子どもに係る保育料の無償化
- ②小児特別医療費助成に係る対象年齢の拡大

## 3 「保育の環境整えます！」保育サービス等の充実

- ①保育所等の待機児童解消のための受入れ人数の拡大
- ②放課後児童クラブの待機児童解消のための受入れ人数の拡大
- ③病児・病後児保育の推進
- ④保育の質の向上を図る私立保育所等の支援

## 4 乳幼児保健・育児支援の充実

- ①乳幼児健診の受診促進
- ②地域での育児支援の充実
- ③発達障がいに関しグレーゾーンの子の親に対する支援（ペアレントトレーニング）
- ④発達障がいへの切れ目のない支援に向けた取組

## 5 妊娠・出産の支援

- ①特定不妊治療等に係る費用の助成
- ②妊婦健診の受診促進
- ③プレマタニティスクールの充実

## 6 「働き方改革しませんか!？」仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の促進

- ①ワーク・ライフ・バランス推進月間の設定(イベント開催)による啓発
- ②ワーク・ライフ・バランス推進企業の取組事例の情報発信による啓発

## 《主な重要業績評価指標KPI》

- ヨネギーズ赤ちゃんファミリー応援大学冊子配布部数《累計》  
⇒5年後（平成31年度）までに、1,500部
- 婚活イベントへの参加者数《累計》  
⇒5年後（平成31年度）までに、500人
- 保育料の無償化の対象となった第3子以降の子ども数（無償化実施時）  
⇒平成27年9月（無償化実施時）において、882人
- 小児特別医療費助成対象者数（対象年齢拡大分）  
⇒平成28年度（対象年齢拡大時）において、4,500人
- 認定子ども園・保育所などの受入れ人数（平成27年度見込み：2,017人）  
⇒5年後（平成31年度）において、2,233人
- 放課後児童健全育成クラブの受入れ人数（平成27年度見込み：1,430人）  
⇒5年後（平成31年度）において、2,284人
- 病児・病後児保育事業の実施箇所数（平成26年度：2箇所）  
⇒5年後（平成31年度）において、5箇所
- 発達障がいへの切れ目のない支援に向けた専門相談センターの設置  
⇒5年後（平成31年度）までに、専門相談センターを設置します。
- 特定不妊治療単市助成の件数《累計》  
⇒5年後（平成31年度）までに、150件
- ワーク・ライフ・バランス推進月間イベント参加者数《累計》  
⇒5年後（平成31年度）までに、400人

# Ⅳ 助け合いみんなで伸びるまち米子

～広域連携を推進し、圏域の一体的な発展を図ります～

【数値目標】

- 中海・宍道湖・大山圏域人口（平成22年：662,035人）  
⇒65万4千人以上（平成31年）※鳥取県西部圏域含む人口

## 1 鳥取県西部圏域が連携した地方創生への取組

- ①鳥取県西部圏域移住定住推進連携事業の実施
- ②鳥取県西部圏域版「DMO」推進調査の実施

## 2 中海・宍道湖・大山圏域が連携した地方創生への取組

- ①三大都市圏での圏域PRプロジェクト
- ②山陰いいものマルシェプロジェクト
- ③インドとの経済交流プロジェクト
- ④圏域インバウンド対策推進事業
- ⑤圏域の産業を「学ぶ」修学旅行誘致プロジェクト
- ⑥ICT活用による観光案内・圏域PR事業
- ⑦産学・医工連携による圏域経済活性化事業
- ⑧中海・宍道湖・大山圏域ものづくり産業振興プロジェクト
- ⑨自然環境豊かな中海・宍道湖の活用プロジェクト
- ⑩EVなどのエネルギー利用
- ⑪ICカードを核とした地域活性化

## ＜重要業績評価指標KPI＞

### 【鳥取県西部圏域】

- 移住セミナー・相談会参加者数（圏域全体）  
⇒平成27年度において、50人
- 移住体験ツアー参加者数（圏域全体）  
⇒平成27年度において、20人
- 移住促進PRパンフレット作成数（圏域全体）  
⇒平成27年度において、1,500部
- 鳥取県西部圏域版「DMO」推進調査事業  
⇒平成27年度において、調査結果の報告書を取りまとめ

### 【中海・宍道湖・大山圏域】

- 圏域への観光入込客数《年間》（平成26年：約2,865万人）  
⇒5年後（平成31年）において、3,870万人
- 圏域での外国人宿泊客数《年間》（平成26年：約5万6千人）  
⇒5年後（平成31年）において、11万2千人
- 山陰いいものマルシェ来場者数《累計》  
⇒平成29年度までに、15万人
- ビジスマッチング商談件数《累計》（平成24～26年度累計：765件）  
⇒5年後（平成31年度）までに、1,800件

【参考】広域連携による既存の施策

### 1 鳥取県西部圏域

○「関西 機械要素技術展」への出展及び参加○鳥取県西部地域企業立地促進補助金の交付

### 2 中海・宍道湖・大山圏域

○圏域内企業の産業連携への支援（企業情報データベースの運営、ビジスマッチング）○圏域内企業の海外展開への支援（ロシアへの販路拡大、海外商談会参加等）○環日本海定期貨客船航路就航への支援○外国人誘客対策（海外での観光プロモーション、クルーズ客船寄港時のおもてなし）○国内誘客対策（国内での観光プロモーション）○圏域観光の魅力アップ（観光客受け入れ体制の充実等）○自然環境の保全・活用（環境体験学習、保全・活用の啓発）○歴史・文化の継承と活用（宝発掘プロジェクト）○安心して暮らすことのできる環境づくり（防災対策の充実）○圏域情報の共有・発信（圏域内外へのエリアプロモーション）○圏域内の連携・交流推進

### 3 中海圏域定住自立圏

○圏域の観光振興（皆生大山シーツースミット開催）○中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業への支援○米子鬼太郎空港の機能強化及び利用促進（米子空港利用促進、米子・ソウル便利利用促進、国際定期航路利用促進）○雇用の促進（就職ナビ、就職ガイダンス）○定住の推進（婚活サポート）